

若年性認知症の方と家族の交流会

○参加者 12名（うち、3名が当事者本人）

参加家族のうち、妻 7名 夫 2名

○活動内容

・事業説明

香川県若年性認知症支援コーディネーター事業や交流会開催実施の説明

・アイスブレイク

初回開催であり、家族、当事者同士初対面の方も多く、緊張をほぐしリラックスしてもらう目的にて実施。今回は、笑いヨガを20分程度行った。



・家族会

参加した家族同士で意見交換を行った。今回は、最初にテーマ「不安に思うこと・困ること」に決め、意見や思いを交わした。



話し合いのなかでは、本人のことを家族が決めないといけないことへの負担、逆に家族の意見を聞いてくれない負担がある。認知症の診断を受けた後、退職を余儀なくされ辛い思いをしたこと、地域の相談窓口ではサービスの情報を得ることができなかったこと、接し方や車の運転について等々意見が出されていた。

・本人ミーティング

当事者同士での交流会を目的とし、話し合った。トークテーマは特に決めず、自己紹介から始まり、各々が自己の体験等を語ってくれた。

3名の当事者とスタッフ1名で意見交換となる。



認知症の診断を受けた後の生活のなかで、病気に対して差別を受けるばかりであった、仕事の依頼がなくなった、仕事の相手先との信頼関係を継続するためと思って、告白したが、逆効果となり、相手先が離れていってしまい辛かった等自己の経験を語ってくれている。

現在の生活では、作業所で作業をしている、定期的に運動を心がける生活をしている、同じ境遇の人と出会いたいので地域で実施している家族会や講演会に積極的に参加している、自分のペースを保ちながら生活を送り、家族と過ごす時間を大事にしている等話されている。